

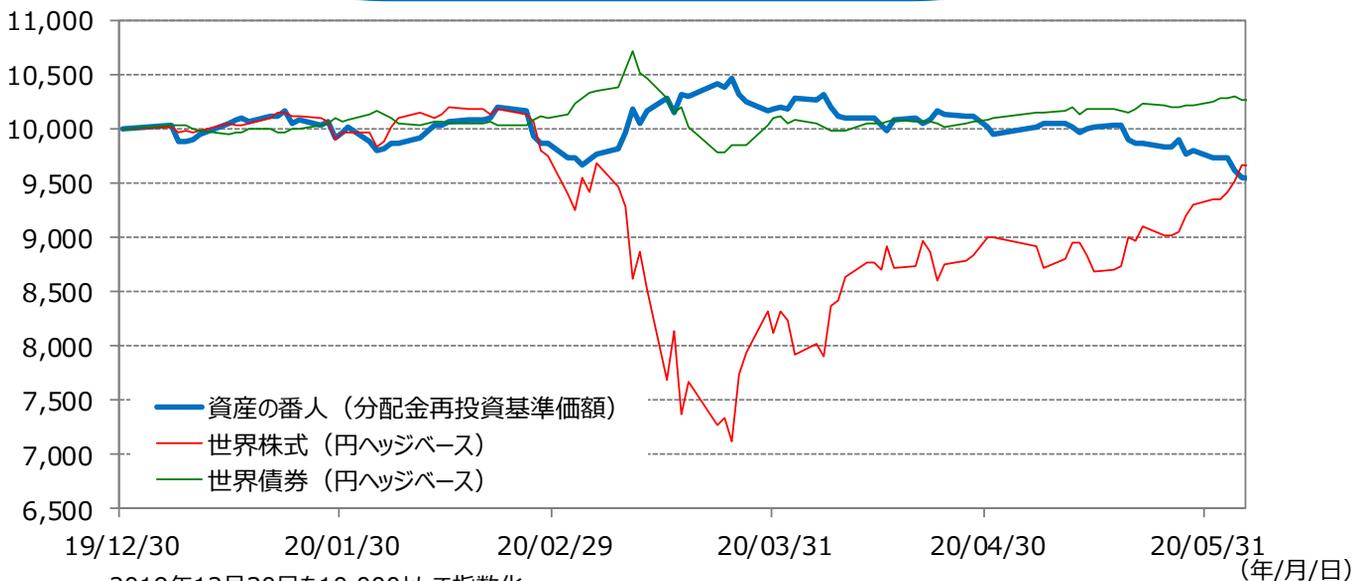


資産の番人コンピューター「マモル」  
（ファンドのイメージキャラクターです。）

## 「運用状況」と「相場の方向に沿って「売り/買い」を交えた投資戦略」

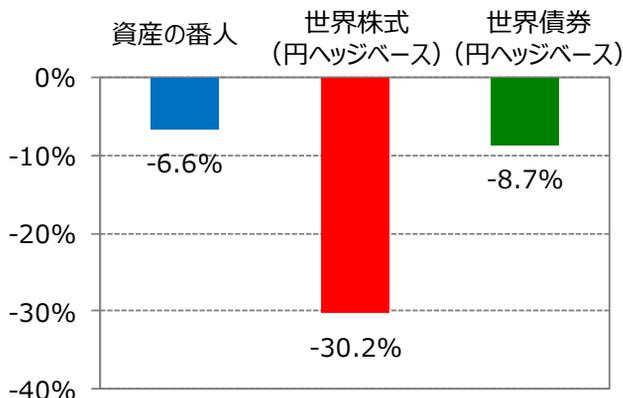
コロナショックにより2020年3月から世界的な相場急落に見舞われましたが、24時間リスクがコントロールされていることや相場の下落トレンド（方向性）を捉えることで、ファンドの基準価額の下落を抑制しました。足許では早くも相場の急反発が見られますが、新型コロナウイルス第2波の恐れや米中対立の激化などまだまだ先行きに不安材料が待ち構えており、引き続き上昇相場なのか、下落相場に転じるのか、判断としますせん。ロボットが相場のトレンドを捉えて、投資比率を調整し、良好な運用成果を上げていくことが期待されます。

【ファンドの基準価額の推移】  
期間：2019年12月30日～2020年6月5日（日次）

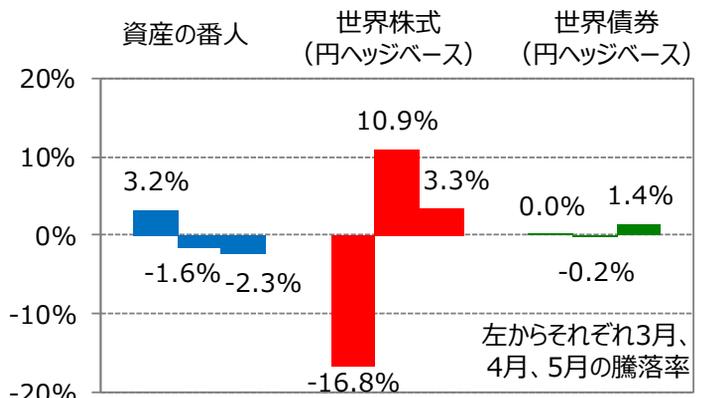


2019年12月30日を10,000として指数化  
分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。分配金再投資基準価額は信託報酬控除後です。1ページから3ページの世界株式（円ヘッジベース）および世界債券（円ヘッジベース）はファンドのパフォーマンス比較のため2営業日前のものを使用しています。

【最大下落率】  
期間：2019年12月30日～2020年5月29日（日次）



【2020年3月以降の月次騰落率】  
期間：2020年3月～2020年5月



使用したデータについては、9ページの「当資料で使用するデータについて」をご参照ください。

出所：ファンドの運用実績、Bloomberg、MSCI、FTSE Fixed Income LLCのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

記載のデータは過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご覧いただくにあたっては、9ページのご留意いただきたい事項を必ずご確認ください。

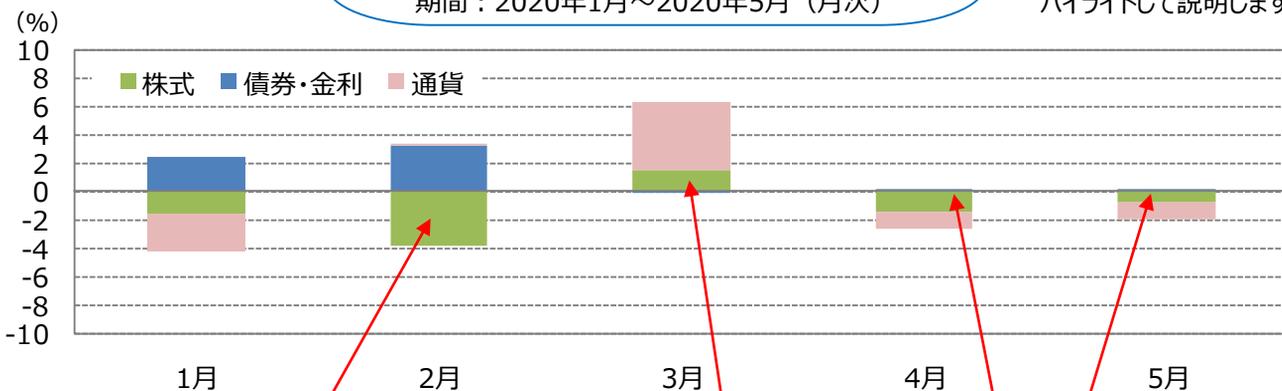
ロボット戦略 世界分散ファンド  
愛称：資産の番人  
追加型投信 / 内外 / 資産複合 / 特殊型 (絶対収益追求型)



資産の番人コンピューター「マモル」  
(ファンドのイメージキャラクターです。)

【ファンドのセクター別寄与度】  
期間：2020年1月～2020年5月（月次）

\* 当ページでは特に株式に  
ハイライトして説明します。

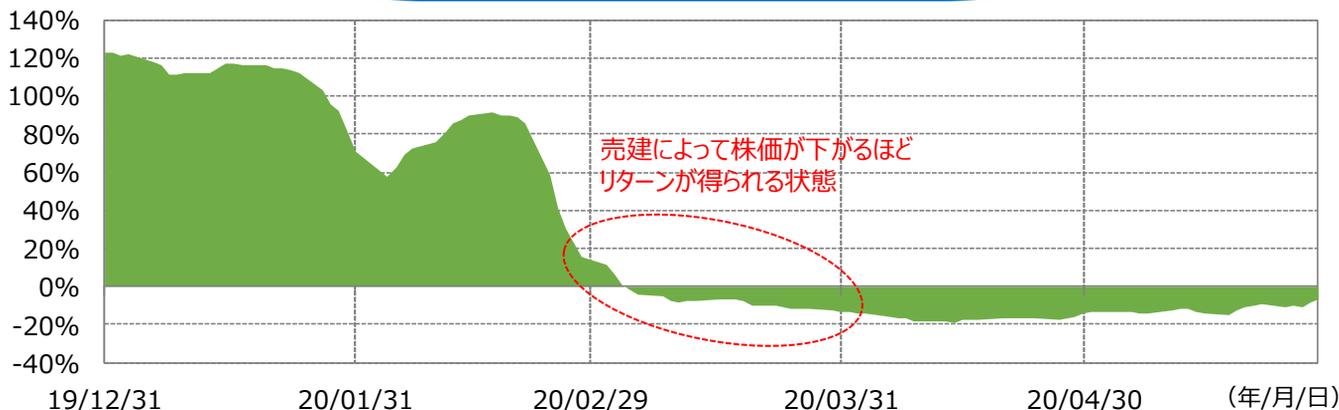


2月は株式市場に明確な方向感がなく、相場のトレンドを捉えることが難しかったため、買建が継続されていた株式では収益を得ることができませんでした。一方で債券価格が上昇（金利は低下）し、米国債を中心に債券を買建していたことから収益を獲りました。

3月に入り株式市場の下落トレンドを捉え、株式を売建に転換することで収益を獲りました。また新興国通貨の下落トレンドを捉え、新興国通貨売り（米ドル買い）のポジションを継続したことで収益を獲りました。

4月、5月は株式市場の反発により、相場のトレンドを捉えることが難しく、株式の売建を継続していたため収益を得ることができませんでした。

【セクター別ネットエクスポージャーの推移（株式）】  
期間：2019年12月31日～2020年5月29日（日次）



(ご参考) 世界株式 (円ヘッジベース) の推移



使用したデータについては、9ページの「当資料で使用するデータについて」をご参照ください。

出所：ファンドの運用実績、マン・グループ、Bloomberg、MSCIのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

記載のデータは過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

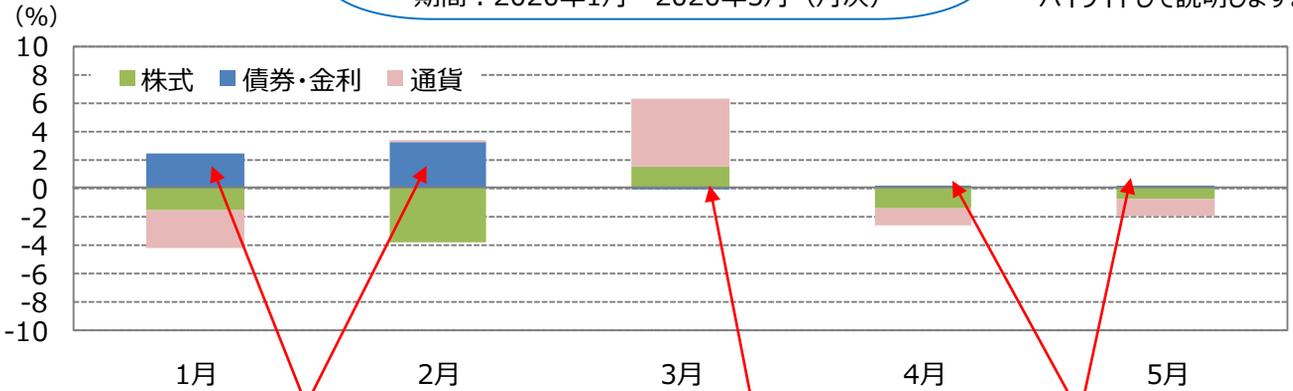
当資料をご覧いただくにあたっては、9ページのご留意いただきたい事項を必ずご確認ください。



資産の番人コンピューター「モモ」  
(ファンドのイメージキャラクターです。)

【ファンドのセクター別寄与度】  
期間：2020年1月～2020年5月（月次）

\* 当ページでは特に債券・金利に  
ハイライトして説明します。

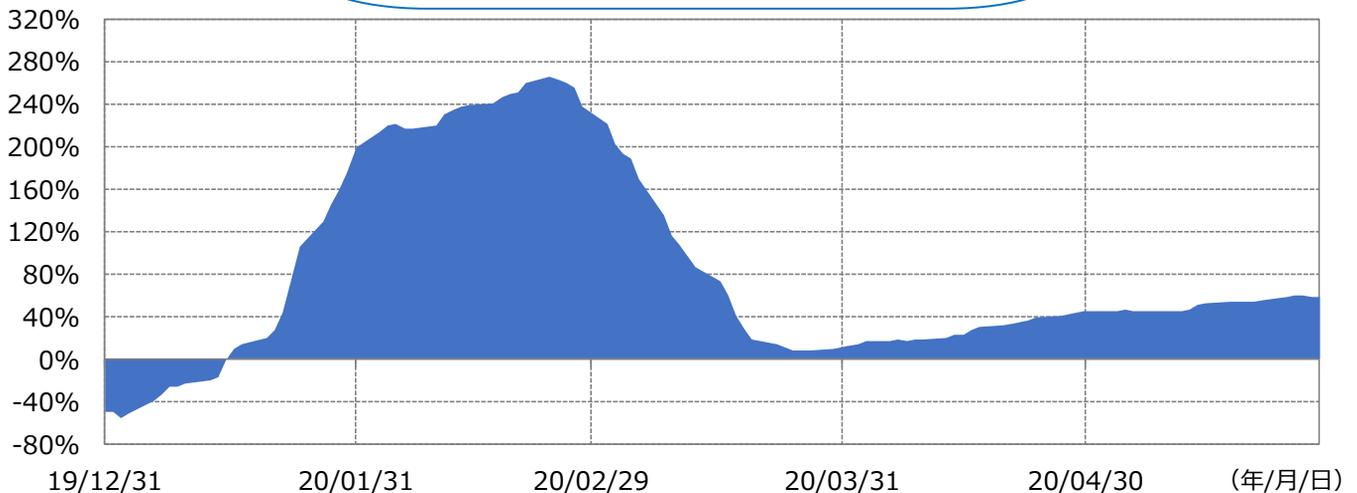


1月中旬の債券市場の上昇により相場のトレンドを捉え、債券は買建に転じました。その後2月末にかけて買建ポジションを大幅に拡大させ、1月と2月に収益を獲得しました。

3月は金融市場全体のリスクが急上昇したことでリスクコントロール機能が働き、徐々に債券の買建ポジションを削減していきました。中旬に債券市場が下落に転じたものの明確な下落トレンドとは捉えられず、削減しつつも買建ポジションを維持し、小幅な収益となりました。

債券市場に明確な方向感がなく、相場のトレンドを捉えることが難しく収益を得ることができませんでした。

【セクター別ネットエクスポージャーの推移（債券・金利）】  
期間：2019年12月31日～2020年5月29日（日次）



(ご参考) 世界債券 (円ヘッジベース) の推移



使用したデータについては、9ページの「当資料で使用するデータについて」をご参照ください。

出所：ファンドの運用実績、マン・グループ、Bloomberg、FTSE Fixed Income LLCのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

記載のデータは過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

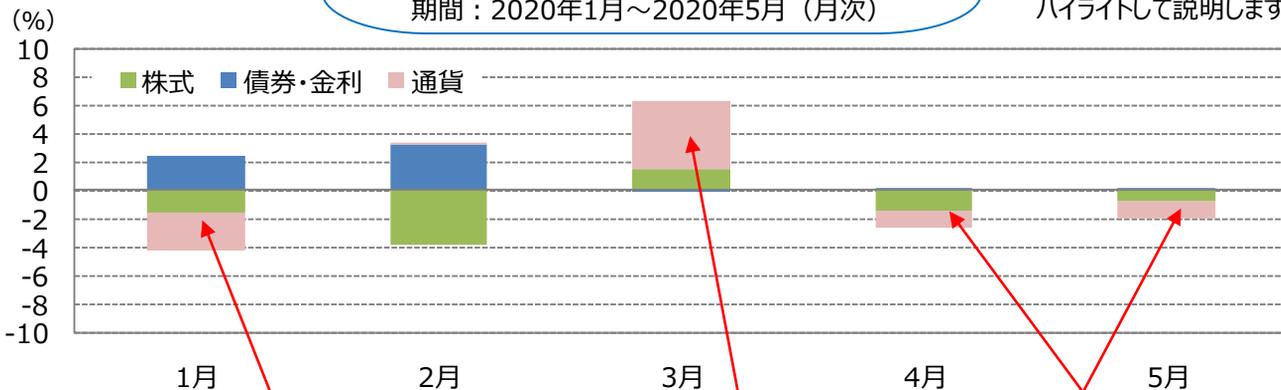
当資料をご覧いただくにあたっては、9ページのご留意いただきたい事項を必ずご確認ください。



資産の番人コンピューター「マモル」  
(ファンドのイメージキャラクターです。)

【ファンドのセクター別寄与度】  
期間：2020年1月～2020年5月（月次）

\* 当ページでは特に通貨に  
ハイライトして説明します。



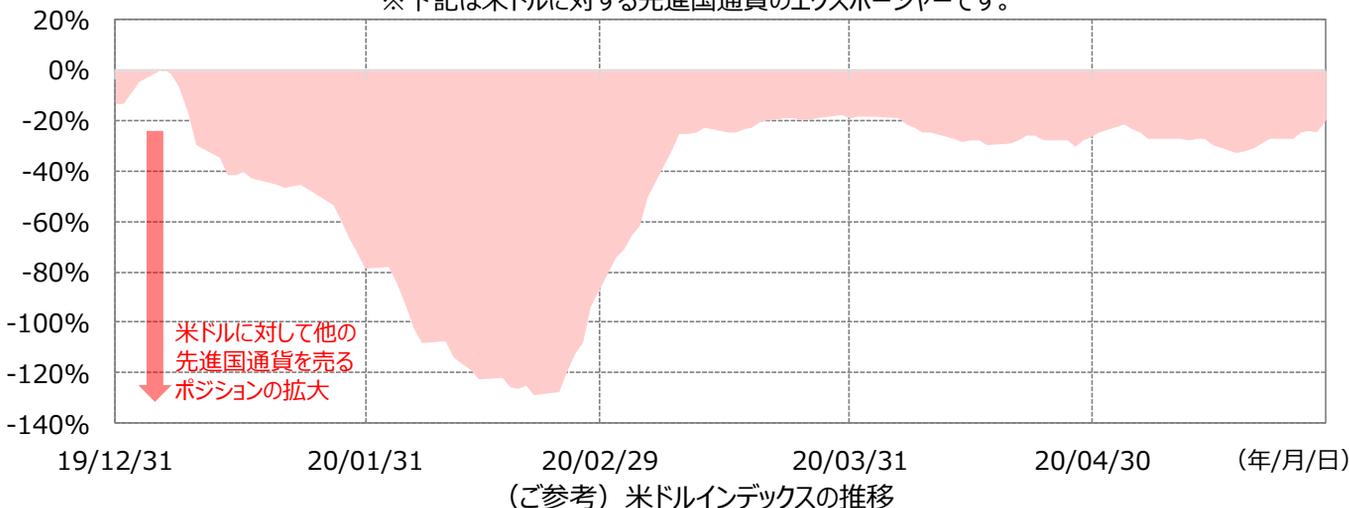
1月は昨年末からのブラジルレアル等、新興国通貨高のトレンドが続いており新興国通貨買い/米ドル売りのポジションが組まれていました。(月末にポジション反転) 1月後半に中国での新型コロナウイルスの感染拡大が確認され、リスクオフの動きにより新興国通貨が下落し、マイナス要因となりました。

3月は金融市場全体のリスクが急上昇したためリスクコントロール機能が働き、米ドル買いポジションが削減されましたが、市場ではリスクオフの動きが鮮明となり、新興国通貨が下落しました。このトレンドを捉え、新興国通貨売り/米ドル買いのポジションを継続したことで収益を獲得しました。

4月、5月は先進国を中心に株式が大幅反発するなど、リスクオンへの展開となりました。通貨においてもリスクオフの米ドル買いからリスクオンの米ドル売りへ急転換したため、損失が発生しました。

【セクター別ネットエクスポージャーの推移 (通貨※)】  
期間：2019年12月31日～2020年5月29日 (日次)

※下記は米ドルに対する先進国通貨のエクスポージャーです。



出所：ファンドの運用実績、マン・グループ、Bloombergのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

記載のデータは過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。  
当資料をご覧くださいにあたっては、9ページのご留意いただきたい事項を必ずご確認ください。



資産の番人コンピューター「マル」  
(ファンドのイメージキャラクターです。)

## 「相場の方向に沿って「売り/買い」を交えた投資戦略」

世界中の市場を見渡してみても、過去を振り返ってみても、相場が永久に一方方向に動く（上昇あるいは下落し続ける）ことはありません。当ファンドは世界中の100以上の各々の市場で、相場の方向が「上昇トレンド」あるいは「下落トレンド」なのかをロボットが24時間休むことなく判断して「買建」あるいは「売建」を行います。「買建」「売建」の金額は、「上昇トレンド」「下落トレンド」の安定した継続に沿って増やしていきます。なお、相場の方向の転換（上昇相場から下落相場、またはその逆やいきなりの急騰や急落）の局面では一時的に損失が発生することも考えられますが、ロボットは明確な「上昇トレンド」あるいは「下落トレンド」を捉えて、持続的な上昇相場あるいは下落相場の大部分で収益をあげることを目指すよう設計されています。また、相場の方向が明確でない（例えば上下を繰り返す）局面では、リスクコントロールによる投資比率の調整を行いながら明確なトレンドを捉えるまでポジションは転換せず、明確なトレンドの発生に応じて「買建」「売建」の投資比率を調整していくことで利益を追求していきます。

【ファンドの基準価額の推移】

期間：2016年9月30日（設定日）～2020年6月5日（日次）



2016年9月30日を10,000として指数化

分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。分配金再投資基準価額は信託報酬控除後です。世界株式（円ヘッジベース）および世界債券（円ヘッジベース）はファンドのパフォーマンス比較のため2営業日前のものを使用しています。



【期間①】  
2016年秋頃～  
2018年初頃まで  
株式の安定的な上昇  
金利の緩やかな低下  
緩やかながらも明  
確なトレンドを形成



【期間②】  
2018年初～  
2018年末頃まで  
世界同時株安、株式  
は上昇下落を繰り返す  
米国の金利上昇への  
転換  
方向感のない相場展開



【期間③】  
2019年初～  
2019年秋頃まで  
株式の力強い上昇  
金利の安定した緩や  
かな低下  
力強く明確なトレンド  
を形成



【期間④】  
2020年初～足許まで  
コロナショックによる世界  
的な株価急落とその後  
の急上昇  
欧米の一時的な金利  
上昇  
乱高下した相場展開

使用したデータについては、9ページの「当資料で使用するデータについて」をご参照ください。

出所：ファンドの運用実績、Bloomberg、MSCI、FTSE Fixed Income LLCのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

記載のデータは過去の実績であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご覧いただくにあたっては、9ページのご留意いただきたい事項を必ずご確認ください。

## ロボット戦略シリーズ

～24時間、休むことなくロボット（コンピュータープログラム）が運用～



### ◆ファンドの魅力

すべての投資対象市場の「上昇トレンド」や「下落トレンド」を判断し、原則としてそれに追従する取引を執行します。（トレンドとは市場の方向性のことです。）  
価格の上昇局面だけでなく、**下落局面についても収益機会の獲得を目指します。**

伝統的な資産との相関が低いことが特徴です。相関が低い資産を組み合わせることで、**分散投資効果が期待できます。**

### ◆ファンドの投資戦略

- 24時間、休むことなく**ロボット（コンピュータープログラム）が運用、リスク管理**を行う（**目標リスク 年率10%程度**）
- 世界中の100以上の投資対象市場に分散投資

## ファンドが投資する外国投資信託の運用会社のご紹介



**マン・グループ（本社：英国 ロンドン）は、5つの運用会社を傘下にもつ、世界最大級のオルタナティブ投資を中心とする先進的資産運用会社です。**

\* オルタナティブとは株式や債券等の伝統的な資産とは異なる資産のこと

- ◆ 運用資産残高1,177億ドル(約13兆円)
- ◆ 1783年創業
- ◆ ロンドンに本社を置き、世界の主要都市に拠点を構える
- ◆ ロンドン市場に上場、FTSE250指数の構成銘柄
- ◆ 資本金53百万ドル（約58億円）
- ◆ 年商11.1億ドル（約1,208億円）
- ◆ 従業員数約1,400名

出所：マン・グループ  
2019年12月末時点  
1米ドル = 108.54円で円換算

**外国投資信託の運用は、AHL パートナース LLPが行います。AHLが世界最先端の金融技術の研究・開発により生み出した独自の定量モデルが、投資判断を行います。**



**AHLはマン・グループ傘下のクオンツ・マルチアセット運用を提供する運用会社です。**

\* クオンツとは金融工学等の知識を駆使し数学的手法を用いて分析を行うこと

**AHLは、1987年の創業以来、30年以上、一貫してコンピューター運用の最先端を走っています。**

- ◆ コンピューター運用の開拓者として30年以上の運用実績を有する
- ◆ 世界の大手年金基金やソブリンウェルスファンド（政府系ファンド）を顧客に持ち、運用資産残高316億米ドル（約3.4兆円）を誇る世界有数のクオンツ運用マネジャー
- ◆ 堅固なりサーチ体制と最先端のトレーディング・テクノロジーを有する（125名を超える研究者集団（数学博士、物理学博士なども含む））
- ◆ 複数のバックアップ・サイトを保持し、頑健なシステムを構築 （2019年9月末現在）

### オックスフォード・マン定量ファイナンス研究所（OMI）

2007年に英国・オックスフォード大学と提携し、共同で研究所を設立  
世界最先端の金融技術の研究・開発を行っています。



## お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
	購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額
換金時	換金単位	販売会社が定める単位
	換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額
	換金代金	原則として換金申込受付日から起算して9営業日目からお支払いします。
申込締切時間		原則として午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
信託期間		2026年8月24日まで（2016年9月30日設定）
決算日		2月、8月の各22日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配		年2回、毎決算時に収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。販売会社との契約によっては税引き後無手数料で再投資が可能です。ただし、必ず分配を行うものではありません。
申込不可日		下記のいずれかに該当する日には、購入・換金の申込はできません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロンドン、ルクセンブルク、ニューヨークの各銀行または各証券取引所の休業日</li> <li>・ ロンドン、ルクセンブルク、ニューヨークの各銀行または各証券取引所の休業日の前営業日</li> <li>・ 12月24日およびその前営業日</li> <li>・ 日本の祝日の前営業日および前々営業日</li> </ul>

## ファンドの費用

### ◆ 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 <b>3.3%（税抜3.0%）</b> を上限として販売会社が個別に定める率を乗じて得た額とします。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

### ◆ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	ファンド	毎日、ファンドの純資産総額に <b>年1.012%（税抜0.92%）</b> の率を乗じて得た額とします。
	投資対象とする 外国投資信託	<p>&lt;基本報酬&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運用報酬 投資対象である外国投資信託において、外国投資信託の純資産総額に対して年1.0%の運用報酬がかかります。</li> <li>・ 管理報酬 マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブの純資産総額に対して、上限年0.2%程度の管理報酬がかかります。</li> </ul> <p>&lt;成功報酬&gt;</p> <p>外国投資信託の純資産総額（基本報酬控除後、成功報酬計上前）がハイ・ウォーター・マーク※を上回った場合、その超過部分に対して15%の成功報酬がかかります。</p> <p>※ハイ・ウォーター・マークは外国投資信託の当初設定元本または直近の決算日（最終営業日）において外国投資信託に成功報酬が発生した場合の成功報酬控除後の純資産総額となり、成功報酬計算期間を通じて毎日計算されます。計算期間内に外国投資信託に追加投資があった場合には当該追加投資金額分に応じて上昇し、解約があった場合には当該解約金額分に応じて減少します。</p>
	実質的な負担	<b>年2.212%（税抜2.12%）程度 + 成功報酬</b> ファンドが投資対象とする外国投資信託の信託報酬を加味して、受益者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。
その他の 費用・手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信託財産にかかる監査費用および当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。</li> <li>・ 証券取引に伴う手数料、組入資産の保管に要する費用等は、信託財産中から支弁します。また、組入外国投資信託においても、証券取引・オプション取引等に伴う手数料、その他ファンドの運営に必要な各種費用等がかかります。</li> </ul> <p>これらの費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を示すことができません。</p>	

上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 販売会社の名称等

販売会社	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
今村証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長（金商）第3号	○		
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	
株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○		
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○
株式会社愛媛銀行	登録金融機関	四国財務局長（登金）第6号	○		
株式会社高知銀行	登録金融機関	四国財務局長（登金）第8号	○		
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第7号	○	○	
株式会社東和銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第60号	○		
株式会社長崎銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第11号	○		
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第6号	○	○	
株式会社福島銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第18号	○		
株式会社山形銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第12号	○		
静岡東海証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第8号	○		
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第128号	○		
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第114号	○		
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第6号	○		
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○	○	○
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第152号	○		
西日本シティT T証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長（金商）第75号	○		
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第181号	○	○	
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第1771号	○		
株式会社常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第45号	○	○	
委託金融商品取引業者 めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第1771号	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○		

加入協会に○印を記載しています。

株式会社愛媛銀行は、ネット取引でのお取り扱いとなります。

## ファンドの関係法人

**委託会社**：T&Dアセットマネジメント株式会社

信託財産の運用指図等を行います。

**受託会社**：野村信託銀行株式会社

信託財産の保管・管理業務等を行います。

## 照会先

**T&Dアセットマネジメント株式会社**

電話番号：03-6722-4810

（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

インターネットホームページ：<https://www.tdasset.co.jp/>

## 投資リスク

**ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者に帰属します。したがって、ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、ファンドは預貯金とは異なります。**

ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクは次の通りです。

価格変動リスク	金利変動リスク	信用リスク	為替変動リスク	流動性リスク
カントリーリスク	デリバティブのリスク	レバレッジリスク	システムリスク	

※基準価額の変動要因（リスク）は、上記に限定されるものではありません。

### 【その他の留意点】

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

### 【分配金に関する留意点】

- ・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・ 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

### 【当資料で使用するデータについて】

世界株式：MSCIワールド・インデックス

MSCIワールド・インデックスはMSCIが開発した株価指数で、世界の主要国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。

世界債券：FTSE世界国債インデックス

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

## ご留意いただきたい事項

- 当資料はT&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、当資料で使用するデータは過去の実績もしくは表記時点での予測であり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料に記載された意見・見通しは表記時点での当社の判断を反映したものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。
- 投資信託はリスクを含む商品であり、株式および公社債等値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 購入のお申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断いただきますようお願い致します。投資信託説明書（交付目論見書）は販売会社にてご入手いただけます。

### ■ 設定・運用は

## T&Dアセットマネジメント

商号：T & Dアセットマネジメント株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第357号  
 加入協会：一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会